

新年会などで飲酒の機会が多くなります。乗るなら飲まない、飲んだら乗らない。「飲酒運転」は絶対にやめましょう

雪のある毎日を快適に過ごすために～4つのお願い



■玄関前の除雪は皆さんで

通勤、通学前の短い時間で広い地域を除雪するため、道路の除雪は雪を車でかき分ける方法をとっています。除雪車が通った後は、各家庭の玄関などに雪がたまることがあります。それを各戸ごとに処理することは時間や費用の面で困難です。
 間口に残った雪は、皆さんで処理するようご協力をお願いします。

■道路に雪を出さないでください

除雪された道路に雪を出すと、除雪の効果がなくなるほか、路面にわだちや凸凹ができ、交通障害や事故の原因となるなど大変危険です。また、ロードヒーティングをしているところに一度に大量の雪を出すと、雪が解けずに交通の妨げになることがあります。

■深夜・早朝の作業にご理解を

朝の通勤・通学の時間までに除雪を終わらせるためには、深夜から早朝にかけて除雪作業をしなければなりません。騒音や振動などでご迷惑を掛けることがありますので、ご理解ください。

■路上駐車はやめましょう

除雪作業のとき、最も困るのが路上駐車です。たった一台の車のために作業が大幅に遅れたり、除雪ができなかったりすることがあり、地域全体に迷惑を掛けます。

除雪作業についてのお問い合わせは、お住まいの区域の除雪センターへ。

(詳細は、広報さっぽろ12月号とじ込みの「冬のガイド帳」をご覧ください)

地区名	所在地	電話番号
中部地区	北1条西9丁目	281-0682
北部地区	大通西27丁目	643-0359
西部地区	宮ヶ丘3丁目	644-9014
南部地区	南22条西15丁目	513-4928



中央区 歴史の散歩道

第88回

多くのスキーヤーが集った

荒井山

身近なスキー場として人気を集め、ジャンプ競技発展の礎となった荒井山を紹介しします。

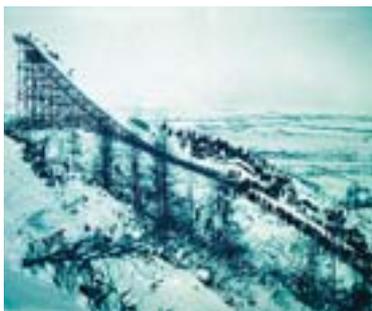
札幌にスキーが最初に持ち込まれたのは、明治三十九年といわれています。四十一年には、東北帝国大学農科大学(現在の北海道大)のドイツ語講師として赴任したハンス・コラーが、学生の間にスキーを広めました。
 その後、単に滑るだけでなく、次第にジャンプなどのスキー競技にも関心が向けられ、昭和初期までに、当時の札幌で最も有名なスキー場だった三角山には、四十メートル級の「札幌シャンツェ」をはじめ、いくつかのジャンプ台が造られていました。

さらに、将来札幌で冬季オリンピックを開催するために、六十メートル級のジャンプ台が必要と考えられ、ノルウェ

ーから専門家のヘルセット中尉を招き、「大倉シャンツェ」の建設が進められることとなったのです。

この時、ヘルセット中尉は、札幌シャンツェは着地面が緩く、設備が近代的ではないので、四十メートル級のジャンプ台も新たに建設すべきだと主張し、荒井山をその場所に指定しました。そして、昭和四年十二月にやぐら組みのジャンプ台が完成し、故秩父宮と故高松宮のご来道にちなみ「荒井山記念シャンツェ」と名付けられたのです。

翌五年には、両宮のご来道を記念したスキー大会の会場となり、荒井山はスキー場として市民に広く知られるようになりました。また、緩急の



荒井山記念シャンツェ (札幌市教育委員会文化資料室所蔵)



昭和初期の荒井山スキー場 (札幌市教育委員会文化資料室所蔵)

傾斜があり広さも適当で、電車の停留所から近いという好条件もあって、荒井山を利用するスキーヤーは年々増えていきました。

一方、ジャンプ台は、三十年代まで北海道スキー連盟の強化合宿に利用されるなど、ジャンプ競技の発展に貢献しました。その名称は、改修のたびにスポンサーの名を冠するようになり、「タイムス記念飛躍台」、「森永記念シャンツェ」と呼ばれることもありました。

こうして、荒井山は札幌の代表的なスキー場となり、長く親しまれてきましたが、藻岩山や郊外に大型スキー場ができること、次第に利用客が減っていく、平成十二年に休止されることとなりました。しかし、ジャンプ台は現在も残っており、少年ジャンパーの登竜門として知られています。